「桑折町水道事業ビジョン」の概要

１．水道事業ビジョン策定の趣旨

桑折町は、町が運営をしている上水道と、地域住民が組合を組織し運営をしている民営簡易水道の２つに大きく分かれ、上水道も民営簡易水道も町民にとって必要不可欠な生活基盤の一つとして桑折町の発展に貢献してきました。

しかし、近年における人口減少や高齢化、水道施設の老朽化など、水道を取り巻く環境の変化は著しく、将来にわたる課題が山積しています。町は、上水道については桑折町水道運営審議会において、民営簡易水道については桑折町簡易水道協会内の組織である簡易水道あり方検討会において、それぞれの現状や課題を明確にし、将来の理想像や目標を検討し、それらの意見を包括して本水道事業ビジョンを作成しました。

『桑折町水道事業ビジョン』は、町上水道、民営簡易水道を含めた本町の水道全体の５０年後、１００年後先の将来を見据えた理想像を設定し、これを達成するために必要な方向性及び具体的施策を明示し、さらには前段で記載した課題に対応し、町総合計画に掲げる「安全安心で住みやすい 生活環境の構築」の実現、及び将来に向けて安定的で持続可能な水道を実現するために策定するものです。

２．水道事業ビジョンの位置付け

本水道事業ビジョンは、『桑折町総合計画』、国の『新水道ビジョン』、県の『福島県水道ビジョン』の視点に留意し、本町水道の将来の理想像を明示するとともに、その実現に向けて当面１０年間に取組む方策と目標を示した、本町水道事業の最も基本となる計画として位置付けます。

３．計画期間と進捗管理

本水道事業ビジョンは、計画期間を令和３年度から令和１２年度の１０年間とします。

施策の推進にあたっては、『桑折町水道事業経営戦略』に沿って、上水道の経営基盤強化を基本に、民営簡易水道を含む全水道使用者のサービス向上に努めていきます。

また、町水道運営審議会等において、事業の進捗状況とその効果を検証し、水道を取り巻く状況や環境の変化に対応していくため、適宜計画の見直しを実施していきます。

４．基本理念

『未来につなぐ 安全で安心な みんなの水道』

町は、住民の命と暮らしを守ることはもとより、経済活動を支えるため、安定的に給水を確保していく責任を担っており、恒久的に水道事業を維持させなければなりません。よって、上記の理念に基づきその実現に向け努めていきます。

５．基本方針

基本理念の実現に向けては、「安全」「強靭」「持続」の３つの視点から基本方針を掲げ、各種施策の推進を図っていきます。

「安全」…いつでも、どこでも、安心して飲める水道

「水安全計画」を策定し、良質で安全な水道水の供給に努めます。

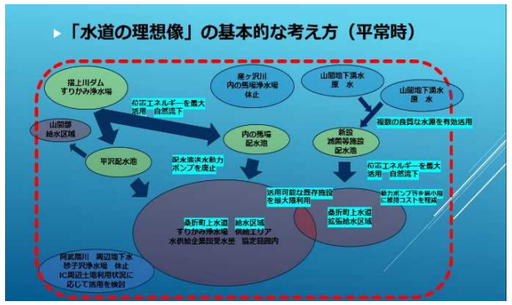
「強靭」…災害に強いしなやかな水道

「施設耐震化計画」を策定し、計画的な水道施設の耐震化に努めます。

「持続」…健全かつ安定的な事業運営が可能な水道

「アセットマネジメント(資産管理)」を実施し、健全な施設の維持管理と、安定した料金収入の確保に努めます。

６．本町の「水道の理想像」



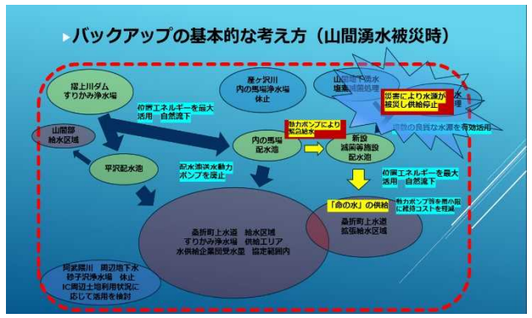
将来の「水道の理想像」イメージ図

将来にわたり安定的で持続可能な水道の実現については、上水道とすべての民営簡易水道が統合し、町内全域を上水道として町が管理運営していくことが有効です。

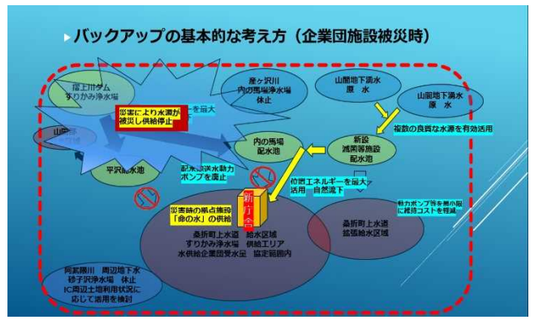
現在の上水道エリアについては、今後の給水人口・有収水量・給水収益の減少などを考慮し、施設のダウンサイジングを行い、コスト削減を図り、福島地方水道用水供給企業団からの受水のみに切り替えることにより、効率的な水の供給に移行します。

また、現在の民営簡易水道エリアについては、これまでと同じく山間部の良質な湧水を水源とし、自然流下による効率的な水の供給を行います。

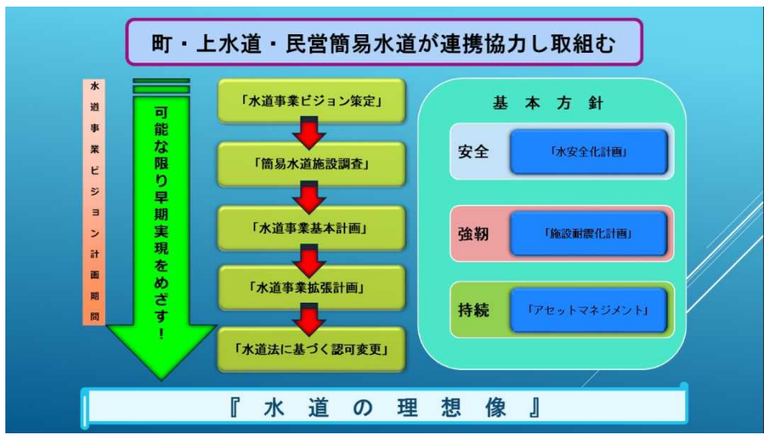
町としては、福島地方水道用水供給企業団からの受水と山間部の良質な湧水を水源とし、双方の水源をバックアップする機能を整備することにより、町民の飲み水である「命の水」を確保していきます。



バックアップ体制図１（山間湧水の水源が被災し給水停止した場合）



バックアップ体制図２（水企業団の関係施設が被災し給水停止した場合）

７．「水道の理想像」実現に向けた中長期見通し

本水道事業ビジョンの計画期間中はもとより、その統合完了までの間は、町・上水道・民営簡易水道が連携協力を図り、それぞれが行うべきことに取り組んでいく必要があります。